

## メッセージアウトライン

### ヤコブの手紙 1:22~25 「みことばを実行する人」

[22]「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません」

ここでは聞いたみことばを実行すべきことが強調されている。聞いても実行しない人は自分を欺いているとヤコブは言う。その理由は、聞いたことを決して自分のこととして受け取らないからである。また別の理由には怠惰も考えられる。→箴言 19:24 キリストのしもべたる者には特にこのことがきびしく戒められている。→マタイ 24:45~51 怠惰な者はみことばを適切な時に実行に移すことができない。私たちは怠惰な者にならないようによくよく注意して自分の心を見張っていなければならない。

[23-24]「みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようなであったかを忘れてしまいます」

人が鏡を見るならば、自分がどんな顔をしているか、髪が乱れているか、顔に汚れがついているか等がよくわかる。ところがヤコブが例にあげている人は、自分の生まれつきの顔を鏡で見ても、やがて鏡の前から立ち去ると、すぐにそれがどのようなであったかを忘れてしまうのである。これは他でもない私たちへの警告である。鏡の前から立ち去って、すぐに自分の様子がどんなであったかを忘れてしまうことが馬鹿げたことであるならば、聖書のみことばを聞いても実行しないことも同様であると言わなければならない。

聖書のみことばを聞くことによって人は現在の自分とあるべき自分とを明確に知ることができる。→Ⅱテモテ 3:16 そして自分の誤りを知り、それを正すために何をしなければならぬかを理解することができる。しかし、もし彼がただそれだけにとどまるなら、それを聞いたことは彼にとって単なる知識にすぎなくなる。

それゆえ私たち信仰者は聞いたみことばを実行する必要がある。しかし、そのことを忘れさせるようなものがこの世には満ちている。また心に植えつけられたみことばを取り去ろうとサタンも働いている。私たちはこの世の与える楽しみで自らを潤そうとするならば、やがてまた渇き、最後には行きづまってしまふということも知っておかなければならない。→ルカ 15:11~16 の放蕩息子の例彼は父のもとに帰った時に本当の自由と平安、喜びを見出した。

[25]「ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、ことを実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます」

最初に神が人間に与えられたのはモーセの律法であった。(神がモーセを通して神の民イスラエルに与えられた)しかし誰もこの律法を完全に守ることはできなかった。この律法を行うことによってはおかえって罪の意識が生じるのみであった。→ローマ 7:7~13

しかし今や神のひとり子イエス・キリストが私たちの罪の刑罰の身代わりとな

って死なれたことにより、私たちは以前とは違う完全な律法、自由の律法を与えられたのである。→ヘブル 10:14~18 完全な律法、自由の律法は神自身が私たちの心の中に置き、私たちの思いに書き記し、内側から私たちを動かす。これは神の福音そのものであり、イエス・キリストによって与えられた新しい契約である。それでモーセ律法によって代表される契約を旧約と言うのに対してイエス・キリストによって与えられた新しい契約を新約と言う。

私たちがこのイエス・キリストによる完全な律法、自由の律法を一心に見つめて離れないならば、必ずやみことばを実行する者となる。そして神はその行いを祝福してくださる。

それゆえ、私たちは自分を欺いたり怠惰に陥ったりすることなく、イエス・キリストによって与えられた自由の律法、福音を見つめ続け、みことばを実行する者になることが大切である。みことばを実行するところに神の豊かな祝福がある。